

## 「第 1 回山形県環境教育推進協議会」における意見（主なもの）

## ＜計画改定サイクル＞

- 地球温暖化やプラスチック問題等、様々な課題がある中、県として行動計画をどのように策定していくのか、前回改定時から変化のサイクルが早くなっているが、時間的に待ってくれない時代になっている。

## ＜SDGs＞

- SDGs を伝えることが環境教育なのではなく、SDGs はあくまでツール。各学校で創意工夫しながら様々な取組みをしているので、その取組みを活かすことが必要。

## ＜目指す将来の姿＞

- 「正しく理解」「当たり前実践」という表現は比較的高いレベルなので検討した方がよい。
- 「当たり前実践している」というのは、学年や年代に合わせて、それぞれの人に合わせた個別の理解と当たり前の実践ということではないかと捉えていけばいい。「個々の事情に合わせた」「個々に合った」等の記載があるとよい。
- 「目指す将来の姿」のところで、小中学生段階のものではないことは承知しているが、「実践」というところは難しくなってくると思う。実践しようとする姿であるとか、実践しようとする意欲であるとかでくくってもらいたい。

## ＜自分ごと＞

- 環境問題を他人ごとではなく自分ごととして捉えられるような意識づけを進めていく必要がある。
- 生き物や自然に触れて、これを大事にしたいということを培うことが環境教育の大事な部分。農業は環境教育を考えるにあたって素晴らしい教材である。
- 自分たちの問題と世界の問題をつなげることも大事なこと。教育現場としてはそのようなことを意識してやっていけたらいいと思う。

## ＜情報発信＞

- YouTube やネットを使った環境学習、自由研究やものづくりなどにも活用できる動画配信など情報発信をより一層進めてもらいたい。

## ＜行動・普及＞

- 「一時的なもの、一方的なものにとどまる場合がある」に同感。活動することが特別なものにならないようにすることが大事。
- 環境に配慮した行動や普及というのは、やれること・出来ることをやる。しゃかりきになって普及することではないと思う。
- みんなで打ち出して、旗を降って引っ張っていくことも大事だが、強すぎると、学校や地域で実践している方々にとって負担が大きくなる。

以上